

# 連絡手段 60代「ケータイ」70代「固定電話」

～年代で分かれた連絡手段、その理由を時代背景で読み解く

株式会社NTTドコモ モバイル社会研究所

## 目次

調査結果1 : シニアの連絡手段の実態

調査結果2 : シニアの年代別連絡手段の実態と背景

## ■ 調査結果

### 1 —— シニアは連絡手段、「ケータイ・スマホ」「固定電話」どちらがメイン？

シニアのコミュニケーションツールとして、ICTがどれ程使われているのかを明らかにしていく。その解明のため、連絡をとる時に、どのような手段を使うか、調査をおこなった。

調査の結果、友人や別居の家族とはケータイ・スマホ、固定電話、メールの順に利用が高い。近隣の人々や同居の家族・親戚とは直接会話が最も高く、固定電話やケータイ・スマホが続いた。一方、職場の仲間とは、ケータイ・スマホが半数を超え、直接会話、メールと続いた。固定電話は3割強にとどまった。また、SNSを利用して連絡をとると答えた人はどの相手であっても5%未満であった(図1)。

連絡相手	近隣の人々		職場の仲間		友人		同居の家族・親戚		別居の家族・親戚	
	手段	割合								
1位	直接会話	85%	ケータイ・スマホ	65%	ケータイ・スマホ	63%	直接会話	69%	ケータイ・スマホ	65%
2位	固定電話	52%	直接会話	47%	固定電話	50%	ケータイ・スマホ	60%	固定電話	61%
3位	ケータイ・スマホ	20%	メール	37%	メール	40%	固定電話	37%	メール	37%
4位	メール	8%	固定電話	33%	直接会話	38%	メール	30%	直接会話	25%
5位	SNS	1%	SNS	4%	SNS	4%	SNS	3%	SNS	4%

図1 連絡をとる手段(3つまで)

出展) モバイル社会研究所「シニアの生活実態調査」  
注) 該当者がいない、NAは対象から除外

### 2 —— 60代は「ケータイ・スマホ」70代は「固定電話」が主流 携帯電話普及期に現役であったかが、現在の連絡手段に影響

シニア全体では、ケータイ・スマホが連絡手段として、固定電話を上回っている状況であるが、年代別にみるとどうだろうか。60代は近隣の人々を除く相手とは、ケータイ・スマホを使って連絡が最も多い。また、メールで連絡をおこなうも、近隣の人々を除き、3割を超える。こうしたことから、モバイル端末が連絡手段の主なツールとなっているのが確認できる。

70代は、別居の家族・親戚、友人、職場の仲間と連絡をとる手段は固定電話が最も高く、近隣の人々、同居の家族・親戚との連絡も固定電話は4割を超えている。(図2)

このように70代は固定電話が主流なのに対し、60代はケータイ・スマホが主流なのは、どのような背景が考えられるのだろうか。携帯電話・PHSの人口普及率が8割を超えたのは2007年であり、この頃多くの人々がモバイル端末を持つ状況となった。その時、今回調査した60代は52歳から61歳と多くの人々が現役世代であり、職場の仲間等と連絡をとる手段として、ケータイを使っていたと考えられる。このような背景が年代による連絡手段の違いにつながっているのではないだろうか。

連絡相手	近隣の人々		職場の仲間		友人		同居の家族・親戚		別居の家族・親戚		
60代	1位	直接会話	85%	ケータイ・スマホ	63%	ケータイ・スマホ	70%	ケータイ・スマホ	70%	ケータイ・スマホ	72%
	2位	固定電話	51%	直接会話	39%	メール	47%	直接会話	67%	固定電話	51%
	3位	ケータイ・スマホ	22%	メール	39%	固定電話	41%	メール	38%	メール	45%
	4位	メール	9%	固定電話	21%	直接会話	37%	固定電話	30%	直接会話	25%
	5位	SNS	2%	SNS	5%	SNS	6%	SNS	5%	SNS	6%
70代	1位	直接会話	85%	固定電話	33%	固定電話	60%	直接会話	70%	固定電話	72%
	2位	固定電話	55%	直接会話	30%	ケータイ・スマホ	53%	ケータイ・スマホ	47%	ケータイ・スマホ	56%
	3位	ケータイ・スマホ	17%	ケータイ・スマホ	28%	直接会話	39%	固定電話	45%	メール	28%
	4位	メール	7%	メール	12%	メール	29%	メール	19%	直接会話	25%
	5位	SNS	0%	SNS	0%	SNS	2%	SNS	1%	SNS	2%

図2 連絡をとる手段(年代別)

出展) モバイル社会研究所「シニアの生活実態調査」

## ■今後の掲載予定

今後も、シニアの生活にどのような特徴がありICTの利用とどのような関係があるのかなど、次号以降で紹介する予定である。なお詳しい調査結果については、2016年10月に発刊予定のデータで読み解くスマホ・ケータイ利用トレンド 2016-2017 ケータイ社会白書(仮称)の中で記載する予定である。

## ■調査概要(シニアの生活実態調査)

調査時期 : 2015年10~11月

調査対象 : 関東(1都6県)在住、60~79歳男女

標本抽出法 : QUOTA SAMPLING 性別・年齢・居住地(都市規模)で割付530サンプル回収

調査方法 : 訪問留置調査

## ■問い合わせ先

どのような文言で質問をおこなったのかなど、ご不明な点がございましたら、下記までご連絡ください。

株式会社NTT ドコモ モバイル社会研究所 msri-inq-ml@nttdocomo.com